

皆さま、こんにちは。
府中教会、アンドレアです。

愛は掟になるものでしょうか。掟とは定めです。人びとに定められたとおりに強制することのできるものです。それは社会秩序の維持のためには、必要なことでしょう。

ところが、愛に関するかぎり、外側から強制されてはならないものです。愛は、心のもっとも内側からでてくるものです。愛はもっとも自発的なもの、自由なものです。

それにもかかわらず、聖書では、愛が掟、もっとも大切な掟になっています。なぜなのでしょう。 「律法の中でどの掟がいちばん大切ですか」という問いに、イエスも旧約聖書を引用して答えています。「心をつくし魂をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛しなさい」。神を愛するというのは、神を大切にすることです。言い換えれば、神さまはこのわたしの大恩人なのだから、他のどんなことよりも、他のどんな人よりも優先し、大切にしなければならないということなのです。こうした考えが、神を愛することが掟とされている根拠なのです。

ところが、イエスは「神への愛」を「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」に結びつけます。すなわち愛が一番大切な掟の中心なのです。最初に神への愛、そしてそれが周りの人々との私たちとの関係へと溢れていきます。皆さんは手に手を取って生きていくのです。ヨハネは第一の手紙の中で極めて直接的にそのことを述べています。「『神を愛している』と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。」（Iヨハネ4 章20 節）。



兵庫県神戸市、生田神社